

中間評価（表紙）

下野市 歴史的風致維持向上計画(平成31年3月26日認定)
中間評価(令和元年度～令和5年度)

■ 統括シート(様式1)	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進	3
II 歴史的風致の認識向上・魅力発信に関する取組の推進	4
III 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援	5
IV 地域の文化や伝統を支えた生業の継承・発展	6
V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上	7
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 建造物調査の進展	8
ii 文化財を活用した取組の推進	9
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 下野国分尼寺跡保存整備事業	10
B 天平の丘公園再整備事業	11
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 薬師寺地域にみる歴史的風致	12
2 国分寺地域にみる歴史的風致	13
3 天王様にみる歴史的風致	14
4 太々神楽にみる歴史的風致	15
5 干瓢生産にみる歴史的風致	16
6 ワラデッポウに見る歴史的風致	17
■ 庁内体制シート(様式6)	18
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	19
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	20

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	薬師寺地域にみる歴史的風致	I、II、III、V	
2	国分寺地域にみる歴史的風致	I、II、III、V	
3	天王様にみる歴史的風致	I、III、V	
4	太々神楽にみる歴史的風致	I、III、V	
5	干瓢生産にみる歴史的風致	IV、V	
6	ワラデッポウにみる歴史的風致	III、V	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進		
II	歴史的風致の認識向上・魅力発信に関する取組の推進		
III	歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援		
IV	地域の文化や伝統を支えた生業の継承・発展		
V	歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	建造物調査の進展		
ii	文化財を活用した取組みの推進		
④ 代表的な事業			
	取組み	事業の種別	
A	下野国分尼寺跡保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	天平の丘公園再整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
方針	I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

国の史跡以外の遺跡については調査研究が不足するほか、文化財の調査研究や指定件数は類型によって偏りがあり、特に建造物の指定件数が少ない。また無形文化財や民俗文化財に関する調査研究が十分ではなく、さらに未指定の歴史的建造物の老朽化・滅失が進んでいる。

遺跡の保存・整備、活用については、周辺環境も含めた一体的な事業を推進する。歴史的建造物に関しては調査等を継続的に実施し、歴史的風致形成建造物への指定や文化財への登録や指定を進め、その保存・活用を推進する。無形文化財及び民俗文化財についても記録や調査を継続的に行い、保護・保存、活用を適切に進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	下野薬師寺跡保存整備事業	第3期保存整備事業を実施	あり	R1～
2	史跡等公有化事業	下野薬師寺跡の公有化	あり	R2～R7
3	下野国分尼寺跡保存整備事業	第2期保存整備事業を実施	あり	H30～R2
4	歴史的建造物の把握・調査	歴史的建造物の把握及び調査(8件)	あり	R1～
5	県指定史跡児山城跡の調査	児山城跡の発掘調査を実施	なし	H28～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

国指定史跡に関しては下野薬師寺跡の第3期保存整備事業として設計等を実施するとともに、下野国分尼寺跡の第2期整備事業が完了した。下野薬師寺跡周辺においては街なみ環境整備事業により周辺整備が進められ、下野国分尼寺跡周辺においても公園整備等が行われ、周辺環境も含めた整備の進行により、歴史的風致の向上が図られた。

歴史的建造物の把握・調査については、小山工業高等専門学校との協力により旧石橋宿及び旧薬師寺村で伝統的建造物の把握調査を行い156棟の建造物を確認するとともに8件の詳細調査を実施し、これまでに3件が国の登録有形文化財として登録された。

また、栃木県指定史跡である児山城跡の発掘調査を平成28～令和2年度に実施し、城の範囲が既指定範囲よりも広範囲に及ぶことが確認された。



下野国分尼寺跡の整備



国の登録有形文化財
旧吉田村農業協同組合西倉庫

④ 自己評価

国指定史跡については、これまで史跡指定範囲のみでしか整備が行われていなかったが、周辺も含めた整備を進められるようになり、歴史的風致の向上につながっている。また、これまでほとんど行われていなかった建造物の調査についても継続的に実施することができ、これにより新たに3件が国の登録文化財として登録できた。

⑤ 今後の対応

下野薬師寺跡については史跡整備を行うとともに周辺環境も含めた整備を推進する。建造物についても引き続き調査を実施し、文化財としての指定・登録及び歴史的風致形成建造物への指定に向けた取り組みを行う。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅱ 歴史的風致の認識向上・魅力発信に関する取組の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的風致の認識を高めることにつながる魅力を発信する施設が十分に整備されていない。また、観光ガイド等を含め、ソフト・ハード両面において居住者、来訪者に対し、歴史的風致の認識向上・魅力発信のための整備が十分でない。

そのため、既存の資料館の改修・整備等により歴史文化の認識向上及び情報発信の拠点として活用するほか、VRの活用・ガイド等による集客力の向上を見込める仕掛け作りについて検討する。また、ガイド等と協働してイベント等を企画・開催し、広く歴史的風致を紹介する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	しもつけ風土記の丘資料館整備事業	常設展示室等のリニューアルを実施	あり	H30～R2
2	天平の丘公園・下野国分寺跡を活用したイベント事業	燈桜会・桜花会等のイベントを開催	あり	R1～
3	歴史文化発信事業	パンフレット等の作成及びVRアプリの導入	あり	R1～
4	ローカルガイド育成事業	ガイド養成講座を実施	あり	R1～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

歴史的風致の情報発信施設として、しもつけ風土記の丘資料館の常設展示室のリニューアル、建物の増築を行い国分寺地区における中心的な施設として整備を行った。また、パンフレット等の作成及びVRを活用したアプリの導入も行った。

天平の丘公園では令和元年度からロウソクの燈で夏の夜を幻想的に照らすイベントである燈桜会を実施しているほか、令和3年度からは公園全体をフィールドミュージアムとして幅広い文化を体験することができる「天平の桜歌会」の開催により、多くの人々が訪れるようになり、認知度の向上にもつながっている。

ガイド養成講座については継続して実施していたが、コロナ禍により講座及びガイド等を実施することがほとんどできなかった。現在は21名の登録者により活動を再開している。



しもつけ風土記の丘資料館
リニューアル



燈桜会開催の様子

④ 自己評価

国分寺地区においては、情報発信施設としてしもつけ風土記の丘資料館の整備を実施したほか、天平の丘公園におけるイベントを新たに企画・実施することができ、歴史的風致の認識向上につながった。また、ガイドについてもコロナ禍を経ても継続した活動を実施することができており、今後も継続した取り組みが期待できる。

⑤ 今後の対応

歴史的風致の認識を高めることにつながる魅力を発信する施設として、薬師寺地区において下野薬師寺歴史館の展示等の改修の検討を行なう。また、天平の丘公園においてはイベントを継続して実施するとともに、新たなイベントの実施を検討し、より積極的な活用を進めていく。ガイドについては養成講座等を積極的に実施し、自主的な運営ができるような仕組み作りを検討する。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅲ 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

無形文化財及び無形の民俗文化財に関する調査がこれまで十分行われておらず、その実態を把握できていない。また、伝統行事等に関する後継者不足による存続及び継承が困難になっている。そのため、歴史的風致を構成する歴史的な営みや活動を継承していくため、担い手への支援とともに、後継者となる若い世代への教育・育成に努める。祭礼や伝統芸能に関しては、調査・記録を実施し、変化していく伝統的な営みや活動を後世に伝えられるよう継承及び後継者の育成への支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	民俗芸能・伝統行事継承事業	調査計画の検討	あり	R1～R10
2	伝統文化体験事業	伝統文化親子教室を実施	あり	R1～R10
3	歴史学習事業	市内の小学校での出前事業等を実施	あり	R1～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

民族芸能・伝統行事の継承のため、基礎調査や記録作成等について検討を行ったが、コロナ禍により祭礼等の中止が相次ぎ、計画通り進めることができなかった。

伝統芸能や民俗行事等の将来の担い手となる小・中学生等に対し、茶華道・お囃子等の伝統文化を体験する伝統文化親子教室に、毎年50人以上の参加があり、子どもたちの体験機会の拡充を図ることができた。

また、資料館における市内外の小学校の見学の受け入れを年40校前後、市内の小中学校への出前授業及び連携した体験事業を実施し、小中学生への歴史文化に対する理解を図った。



伝統文化親子教室



ワラデッポウ体験



小学校での出前授業

④ 自己評価

民俗芸能・伝統行事の継承のための取り組みである調査及び記録作成等については予定通り実施することができなかったが、体験の機会等や歴史学習については継続した取り組みができ、小中学生への理解を深めることができた。

⑤ 今後の対応

民俗芸能・伝統行事の継承のための取り組みである調査及び記録作成等については、行事が再開されてきているため、早期に取り組みを実施する。また、体験や歴史学習については今後も継続した取り組みを行っていくが、恒常的になり目新しさが失われている面もあり、より興味関心のある事業を検討する。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
方針	IV 地域の文化や伝統を支えた生業の継承・発展	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市が生産量日本一を誇る干瓢生産は、その担い手が高齢化し後継者が不足するとともに生産量も減少している。それにより耕作放棄地等が増加し良好な農村景観を阻害している。この農村景観の重要な構成要素である平地林も減少しており良好な景観が損なわれつつある。

これらを解消するために、農業の担い手支援や農業経営の高度化支援を展開する。耕作放棄地の解消については、認定農業者等の担い手への利用集積を図り、農地の高度利用に努める。また、平地林については、農村における里山として、また本市の歴史的風致の重要な構成要素としての保存を図るため、調査及び保護・保全のための方策等について検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	干瓢生産・消費推進事業	夕顔の苗の購入、生産機械等への補助、消費拡大のためのイベントを実施	あり	R1～R10
2	干瓢生産道具保存活用事業	干瓢むきの出前講座の実施及び生産道具の資料調査を実施	あり	R1～R10
3	天平の丘公園再整備事業	天平の丘公園再整備計画を策定し、トイレ改修、駐車場改修等を実施	あり	R1～R8

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

干瓢の生産・消費推進の取り組みとして、夕顔の苗の購入及び生産機械、施設整備に対する補助を行うとともに「しもつけかんぴょうまつり」及び「かんぴょうづくしまつり」を開催し、干瓢の魅力発信・消費拡大を図った。また、江戸時代から続く干瓢生産の生産道具の保存・活用をすすめるため、干瓢生産道具の調査やかつて使用されていた「手カンナ」を使用した干瓢むきの出前授業を小学校で実施し、干瓢への理解・関心を深めることができた。

天平の丘公園では平地林の景観を保全するため再整備事業を実施し、平地林の間伐やトイレ・駐車場等の再整備を行った。



干瓢むき体験の様子



天平の丘公園駐車場再整備



しもつけかんぴょうまつりチラシ

④ 自己評価

干瓢生産振興については各種取り組みを行ってきたが生産者の減少等の解決には、なお一層の取組が必要であり、生業として後世へ残すためには、更なる消費拡大策についても検討する必要がある。天平の丘公園については既存の平地林の良好な景観が保持することができた。

⑤ 今後の対応

干瓢生産農家への支援を継続し、干瓢の生産振興を図るとともに、干瓢の魅力発信のため引き続きイベント等を開催するほか、新たな取り組みについての検討を行い、消費意欲向上を目指す。干瓢の生産道具についても国の登録文化財への登録を目指す取り組みを行う。天平の丘公園再整備は景観保全への配慮をしつつ引き続き事業を実施し、一部借地の公有化を進める。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
方針	V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

現状において景観に関する規制や誘導等についての景観計画を策定しておらず、良好な景観の形成に関する方針が示されていない。また、市内の文化財を周遊するための整備等が不足しているほか、各種便益施設の整備が課題である。

これらの課題に対し、良好な景観の形成に向け景観計画の策定を行うとともに、景観に配慮した情報案内・説明板を設置する。また、道の駅しもつけを下野薬師寺跡及び周辺文化財の情報発信の拠点施設として活用し、駐車場やトイレ、休憩施設等の便益施設の整備を検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	景観計画の策定	令和3年度に景観計画を策定	あり	R1～R2
2	薬師寺周辺駐車場等整備事業	令和4年度に駐車場整備を完了	あり	R1～R4
3	下野薬師寺いにしへの道整備事業	整備構想を策定し現況測量を実施	あり	R1～R8
4	情報案内・説明看板設置事業	庁内で看板等の統一を図るため、各事業担当間で意見交換を実施	あり	R1～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

良好な景観の形成を図るため令和3年度に景観計画を策定した。薬師寺地区においては、道の駅しもつけを下野薬師寺跡を含む周辺文化財の周遊の拠点とするため、不足していた駐車場の整備を行うとともに、道の駅から下野薬師寺跡へつながる周遊ルート整備等を行うため、薬師寺地区街なみ環境整備構想を策定した。この中で道路の美装化、便益施設の整備等の検討を行った。また、重点区域である薬師寺地区及び国分寺地区において案内・解説看板について、統一に向け庁内において意見交換を行い、情報の共有を図った。



薬師寺地区での地区施設等整備方針



道の駅と整備された駐車場

④ 自己評価

景観計画の策定により、良好な景観形成を進めるための総合的な指針ができた。重点区域である薬師寺地区においては、先行して駐車場整備を行うとともに下野薬師寺跡周辺の整備を行うため、整備構想を策定し今後の整備へとつなげることができた。

⑤ 今後の対応

策定した薬師寺地区街なみ環境整備構想に基づき、市道の美装化や便益施設の整備等に合わせ、歴史的風致形成建造物等の整備を行っていく。また、案内・説明看板についても統一したサインの在り方を検討し薬師寺・国分寺地区の重点区域内を中心に設置を進める。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
効果	i 建造物調査の進展		

① 効果の概要

これまでほとんど実施していなかった歴史的建造物の把握及び調査を実施し、歴史的建造物169軒を把握するとともに8件の詳細調査を行った。これらの建造物のうち1件（2棟）が国の登録有形文化財の登録を受けた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	下野市文化財保存活用地域計画	あり	R2～R7
2	下野市景観計画	あり	R4～

③ 効果発現の経緯と成果

当市ではこれまでに歴史的建造物の調査がほとんど実施されておらず、指定文化財、登録有形文化財についても件数が少ない現状にあった。歴史的風致維持向上計画策定に伴い一部建造物の調査が実施されたが、十分な調査とは言い難く、計画策定以降も引き続き建造物の調査を実施した。

調査はまず伝統的景観要素分布調査として、日光街道の宿場町であった石橋宿と下野薬師寺跡周辺の日光街道の脇往還ある関宿通多功道にそって形成された旧薬師寺村において実施した。調査は小山工業高等専門学校の協力により実施し、分布調査により石橋地区で76軒、薬師寺地区で93軒の合計169軒の建造物を把握することができた。その後、歴史的風致を形成する歴史的建造物についての詳細調査を実施しこれまでに8件の調査を実施した。調査成果については、毎年報告会を実施し地域住民への建造物に対する理解の向上を図っている。

この調査を実施するとともに、文化財への指定及び登録について所有者との協議を行い、所有者の同意を得られた旧吉田村農業協同組合東倉庫（吉田村Village東棟）及び西倉庫（西棟）の2件が国の登録有形文化財の登録を受けた。

このように、これまで調査の十分でなかった建造物について調査や文化財への登録を進めることができた。



建造物調査の様子



建造物調査報告会の様子



旧吉田村農業協同組合東倉庫
（吉田村Village東棟）

④ 自己評価

これまで十分に調査が実施されていなかった歴史的建造物の把握及び調査を実施し、そのうち2件の建造物を国の登録有形文化財に登録することができた。これからの取り組みにより、今後継続的に調査を実施し、より多くの歴史的建造物を指定・登録等により保存・活用を行うための素地ができた。

⑤ 今後の対応

他の地区においても歴史的建造物の分布調査を行うとともに、引き続き詳細調査を実施し、文化財や歴史的風致形成建造物への指定等に向けた取り組みを行う。また、指定等を受けた建造物について保存・活用についての検討を行っていく。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
効果	ii 文化財を活用した取組の推進		

① 効果の概要

歴史文化の活用を図るために「東の飛鳥」プロジェクト及び隣接自治体と連携した取り組みの推進。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	下野市文化財保存活用地域計画	あり	R2～R7
2	第二次下野市総合計画 後期基本計画	あり	R3～R7
3	第二次下野市教育大綱	なし	R3～R7

③ 効果発現の経緯と成果

本市には古墳時代から飛鳥・奈良時代の遺跡が多く残されており、これらのうち国の史跡に指定された下野薬師寺跡や下野国分寺跡等の整備が進められてきたが、十分な活用が行われているとは言い難い状況であった。

そのため、これらの史跡等文化遺産が多数所在する歴史的特性から、教育や観光の資源として総合的に活用し、文化財による地域づくりを進めるための取り組みを「東の飛鳥プロジェクト」と位置付けて各種事業を展開することとなった。また、このプロジェクトをイメージしたロゴマークも作成した。

この取り組みを進めていく中で、隣接する上三川町、壬生町とも連携し、地域住民に文化財の重要性をPRし、地域振興につなげていくため、「下野市・上三川町・壬生町文化財連携事務研究会」を設立した。

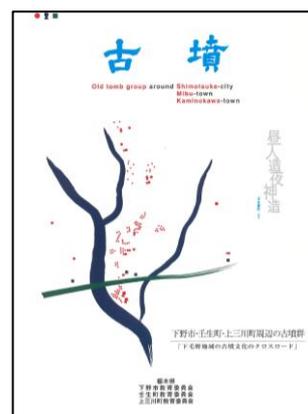
このように、本市における文化財を活用した取り組みの他に、近隣自治体との連携した広域的な取り組みを進めることができるようになった。



「東の飛鳥」ロゴマーク



研究会の講演会の様子



連携して作成したパンフレット

④ 自己評価

これまで主に文化財担当部局で行ってきた文化財の活用・PR等について、全庁的な取り組みとして行っていく素地ができた。また、隣接する上三川町、壬生町と連携した取り組みにより、広域的な文化財の活用を進めることができるようになった。

⑤ 今後の対応

引き続き文化財を活用した取り組みである「東の飛鳥プロジェクト」を進めるとともに、上三川町、壬生町と連携した取り組みを進め、より効果的な活用についての検討を行う。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	A 下野国分尼寺跡保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>下野国分尼寺跡は下野国分寺跡と近接して所在しているが、その存在が確認されたのは昭和39年のことである。工事中に発見された尼寺跡はその後の発掘調査を経て、昭和40年に国の史跡に指定され、昭和45年には国分尼寺跡として初めて史跡整備が行われた。尼寺跡周辺は当時の国分寺町により天平の丘公園として整備が行われ、以来、桜の名所として県内でも有数の観光地となっている。</p> <p>尼寺跡はその後の発掘調査等により、史跡の追加指定及び再整備の必要性があることが確認され、平成23年度から第2期保存整備事業に着手した。整備にあたっては、既存の平地林を活かし、寺院地の広がりを感じられる計画とした。令和1～2年度に整備工事を実施し、平地林の整備、西門や塀跡の表示、植栽等を実施し令和3年度から供用を開始した。</p>			
		 <p>下野国分尼寺跡整備全景</p>	
		 <p>平地林の整備状況</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>下野国分尼寺跡は、天平の丘公園の一部として活用され、例年開催される天平の花まつりの際には多くの人々で賑わいをみせている。尼寺跡の整備を実施したことにより、史跡についてより理解がしやすくなるとともに、減少しつつある平地林の保全を行うことができたほか、天平の丘公園で行われるイベント等での活用も行われ、国分寺地区の歴史文化の発信にも寄与している。</p>			
外部有識者名	国土舘大学元教授 須田勉(史跡下野国分尼寺跡保存整備委員)		
外部評価実施日	(未定・今後実施予定)		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>(実施後記載)</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>(実施後記載)</p>			

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	B 天平の丘公園再整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>天平の丘公園は下野国分寺跡や下野国分尼寺跡を含む公園で、旧国分寺町時代から公園の整備が進められ、桜の植栽により県内でも有数の花見のスポットとなっている。しかし、公園整備以降、計画的な維持管理が実施されてこなかったことから、公園の利用や史跡整備の行われた国分寺跡や国分尼寺跡等の活用が十分に行われていなかった。</p> <p>この天平の丘公園の再整備事業として、天平の丘公園再整備基本構想・基本計画とともに社会資本総合整備計画（都市再生整備計画事業）を策定、公園内に広く残されている平地林の保全のため間伐や枯木の伐採をしたほか、公園内のトイレ改修、駐車場再整備及び駐車場から下野国分寺跡への連絡通路等の整備を実施した。また、園内の借地の一部についての公有化を進めた。その他、樹木管理計画の策定、樹木マップを作成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">樹木マップ</p> <p style="text-align: center;">駐車場整備状況</p>			
<p>② 自己評価</p> <p>天平の丘公園再整備事業の実施により、下野国分寺跡や下野国分尼寺跡、しもつけ風土記の丘資料館をつなぐ連絡路を整備し、史跡地を周遊しやすい環境となった。また、園路のバリアフリー化やトイレの改修、間伐等により、公園の利便性向上と景観の保全に取り組むことができた。しかし、樹木の老木化や害虫被害による枯損等の課題もあることから、樹木の樹勢回復や更新について検討を進めていく。</p>			
外部有識者名	下野市文化財保護審議会 会長 小林利孝		
外部評価実施日	（未定・今後実施予定）		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>（実施後記載）</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>（実施後記載）</p>			

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	1 薬師寺地域にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進 II 歴史的風致の認識向上・魅力発信に関する取組の推進 III 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援 V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

下野薬師寺の創建以前から存在していた周辺の集落は、寺院創建時から建設にかかわり、その後も寺院を支えるなど寺院と密接な関係にあったと考えられている。中世から近世にかけては街道や水利施設等の整備によって生業等が発展し、周辺の集落と寺院との関係、そして周辺環境を含めた空間構造は下野薬師寺を中心に形成・維持そして継承されてきた。現在の薬師寺地域はこのような仏教寺院のみならず、その関連施設や民家、田畑、平地林など、歴史的な重層性が現れた独特の景観を形成してきたといえる。さらに寺院とその関連施設等の祭礼や伝統行事など、民俗・文化的にも下野薬師寺との関係を礎として発展、維持、継承されてきたことで、豊かな歴史的風致が形成されたといえる。

② 維持向上の経緯と成果

薬師寺地区の中核となる国指定史跡下野薬師寺跡においては、第3期保存整備事業を実施するため、基本設計・実施設計等を行った。今後整備工事を実施し、薬師寺地区の中心的な史跡として活用を進めていく。また、薬師寺地区における歴史的建造物の把握調査を行うとともに詳細調査を実施し、今後の歴史的風致形成建造物や文化財への指定・登録を進めるための検討資料とすることができた。

また、薬師寺地区を周遊するための拠点として活用を図っていく道の駅もつけの駐車場整備を実施するとともに、道の駅から下野薬師寺跡への周遊ルートの検討及び周辺道路の美装化、及び便益施設を整備するため、薬師寺地区街なみ環境整備構想を策定した。この構想の中で、歴史的風致形成建造物指定候補である御鷲山古墳について、指定後、公有化を行い整備を実施することも盛り込んだ。

祭礼等についてはコロナ禍により休止が相次いだため調査、継承に向けた取り組み等を実施することができなかった。

下野薬師寺跡では、例年史跡への認識向上のためエゴマ灯明の会、史跡まつり等のイベントの他、近隣の小学校のふるさと学習を実施している。コロナ禍により一時中止となった時期はあったが、いずれも再開して実施している。



道の駅と整備された駐車場



薬師寺六角堂の建造物調査の様子



エゴマ灯明の会の実施状況

③ 自己評価

下野薬師寺跡の整備及び周辺の道路の美装化及び便益施設の整備及び御鷲山古墳の整備を行うことにより、薬師寺地区にける歴史的風致の向上に資することができる。祭礼等の継承に向けた取り組みはコロナ禍により実施することができなかった。

④ 今後の対応

薬師寺地区街なみ整備基本構想に基づき、道路の美装化、四阿・トイレ等の便益施設整備を進めるとともに、御鷲山古墳を歴史的風致形成建造物に指定し整備を行う。また、道の駅からの案内標識や説明板を統一したデザインにより設置していく。祭礼等の継承に向けた取り組みについても今後積極的に実施する。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	2 国分寺地域にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進 II 歴史的風致の認識向上・魅力発信に関する取組の推進 III 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援 V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

国分寺地域における歴史的景観は、奈良時代に創建された下野国分寺・国分尼寺と、寺院創建以前から築造された多くの古墳がこの地域の空間構造の基盤となったといえる。集落や人々の生活はこの仏教寺院とのかかわりの中で形成され、発展し、現在に至るまで周辺地域は古代以来の空間の基本構造を保ち続けてきた。中・近世を通じて古墳や寺院跡は平地林の一部となり、地域住民とのかかわりを持ちながらも、神聖な土地という意識は連綿と受け継がれてきた。その一方で仏教寺院としての国分寺は場所を変えて現・国分寺に引き継がれ、周囲の神社などの宗教施設とともに、この地域における信仰の拠点となって伝統行事などが継承されてきた。また、里山として利用される平地林や集落で営まれる日常生活や農業などの生業も、古墳や寺院跡との歴史的な関係の中で形成、継承されてきた。このように国分寺地域では、古代からの空間構造をもとに形成、継承されてきた歴史的景観と人々の生活が魅力的な歴史的風致を形成しているといえる。

② 維持向上の経緯と成果

国分寺地域における中核的な施設である天平の丘公園には、国指定史跡である下野国分寺跡、下野国分尼寺跡や古墳等のほか、しもつけ風土記の丘資料館等の施設が所在している。この国分寺地域の歴史的風致の向上を図るため、下野国分尼寺跡保存整備事業、しもつけ風土記の丘資料館整備事業、天平の丘公園再整備事業及び天平の丘公園・下野国分寺跡を活用したイベント事業等を実施した。

下野国分尼寺跡では主要伽藍北側及び西門周辺を対象とした第2期保存整備事業を実施した。しもつけ風土記の丘資料館を市の歴史文化全体の認識向上及び情報発信の拠点として活用するため、常設展示室のリニューアル及び建物の増築等を実施し令和3年度に公開を開始した。また、天平の丘公園では、平地林の間伐や枯木の除去等により、良好な平地林の景観の保全を行ったほか、駐車場の整備、トイレの改修等を実施した。

また、天平の丘公園を活用し、歴史文化への認識向上のため「しもつけ燈桜会」「天平の桜歌会」等のイベントを開催したほか、下野国分寺跡においては近隣の小中学校による落ち葉さらい等も実施した。



しもつけ風土記の丘資料館
常設展示室リニューアル状況



天平の丘公園平地林間伐の様子



しもつけ燈桜会開催の様子

③ 自己評価

既に整備の終了している下野国分寺跡とあわせた下野国分尼寺跡の整備、天平の丘公園の再整備及びしもつけ風土記の丘資料館の整備を実施したことにより景観の保全や積極的な情報発信を行うことができた。また各種イベントの実施により国分寺地区の歴史文化の認識向上につながった。

④ 今後の対応

天平の丘公園の再整備事業を継続して実施するとともに、イベント等や資料館において歴史文化の発信に努める。また、近隣の小中学校による下野国分寺跡の落ち葉さらい等により、将来の歴史的風致の担い手となる小中学生の認識向上を図る。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	3 天王様にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進 Ⅲ 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援 V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

毎年7月中旬、本市では現在も各地で天王信仰に基づく祭礼(天王様)が行われており、夏の風物詩となっている。人々は何日も前からそれぞれの神社や公民館等に集まって準備を行い、祭り本番は、氏子をはじめとする地域の人々が協力し合って神社や自治会に受け継がれた神輿が町内を渡御するなど、威勢のいい掛け声やお囃子の音色が各神社を中心とした地域に響き渡る。また、天王様は地域の歴史や伝統に触れる機会であるとともに、世代を超えて住民間の交流を図ることができる場を提供している。祭りを通して人々は日々の平穏な生活に感謝し、この地域の一員であることを改めて認識し、このまちで暮らすことの喜びや幸せを実感する。本市の天王様は各神社の神輿や山車、屋台の巡行とそれらが通る町並みが一体となって歴史的風致をつくりだしている。

② 維持向上の経緯と成果

本市の各所で行われている牛頭天王にちなんだ「天王様」と呼ばれる祭礼のうち規模の大きなものとして、薬師寺、本吉田、石橋、下古山、小金井で行われているものがある。これらの天王様では神輿渡御が行われ、沿道に残される歴史的建造物と一体となり歴史的風致を形成している。

薬師寺地区においては、薬師寺の祇園祭で神輿渡御のルート上にある薬師寺八幡宮の本殿や薬師寺六角堂の調査を行ったほか、御鷲山古墳の歴史的風致形成建造物への指定に向けて所有者への説明等を行った。元吉田地区においても祭礼のルート上にある本吉田八幡宮及び旧吉田村農業協同組合倉庫(2棟)の調査を行い、倉庫については国の登録有形文化財としての登録を受けた。石橋地区では、歴史的建造物の所在調査を行い76棟の歴史的価値のある建造物の確認した。

祭礼については記録等の作成を検討したがコロナ禍により祭礼が中止となり調査・記録等を実施することができなかった。



吉田八幡宮八坂神社夏祭りでの神輿渡御



国登録有形文化財に登録された旧吉田村農業協同組合西倉庫



御鷲山古墳 歴史的風致形成建造物指定候補

③ 自己評価

歴史的建造物調査の実施により、これまで調査の十分でなかった建造物の把握・調査が進み国の登録有形文化財として登録を受けることができた。また、歴史的風致形成建造物への指定に向けた取り組みも進めることができたが、祭礼の調査等はコロナ禍もあり十分に進めることができなかった。

④ 今後の対応

建造物の調査を引き続き実施し、文化財や歴史的風致形成建造物への指定や文化財として登録に向けた取り組みを進めるとともに、地域の祭礼については詳細な調査・記録等を行い、継承のための支援等の措置についての検討を行っていく。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	4 太々神楽にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 地域の歴史を伝える文化財の保存・活用の推進 III 歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援 V 歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

下古山星宮神社と橋本神社は、現在もそれぞれの氏子地域を中心に信仰されており、江戸時代あるいは明治時代からの太々神楽は、保存会をはじめとする地域の人々によって支えられて現代まで受け継がれてきた。太々神楽が奉納される祭礼の当日には、神社の境内に太鼓や笛が奏でる音が鳴り響き、神聖な雰囲気の中、面をつけた舞手が舞う様子は歴史的な風情を感じさせる。神事が執り行われる本殿や神楽殿をはじめとする建造物と其中で奉納される太々神楽、これらを支えてきた地域の人々が一体となって歴史的風致をつくりだしている。

② 維持向上の経緯と成果

下古山星宮神社と橋本神社の太々神楽は氏子を中心とした保存会により継承活動が行われている。いずれも会員の高齢化や後継者の不足が課題となっている。過去に映像により記録を作成しているが、20年以上が経過しており新たな調査及び記録の作成の必要がある。そのため調査・記録の内容について検討を行ったが、コロナ禍による影響もあり実施することができなかった。



下古山星宮神社太々神楽の様子



橋本神社太々神楽の様子

③ 自己評価

太々神楽の継承のため保存会の意見等も参考にしながら、記録等の作成が必要であるが、コロナ禍により実施することができなかった。

④ 今後の対応

太々神楽の継承のため、調査・記録等を行っていくほか、神楽に使用する道具等の修理等について支援を行う。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	5 干瓢生産にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV地域の文化や伝統を支えた生業の継承・発展 V歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

下野市内全域の台地上に分布している夕顔を栽培する畑、干瓢生産農家、そして堆肥の原料となる落ち葉を供給する平地林などからなる伝統的な景観と干瓢生産という生業に関わる人々の営みは、本市特有の文化的景観を形成している。江戸時代中期に始まった干瓢生産によって作り出された文化的景観は、本市の自然環境を背景に発達した伝統産業と伝統的建造物等によって形成された本市の地域性をあらわす歴史的風致といえる。

② 維持向上の経緯と成果

本市の特産品である干瓢は江戸時代から生産が行われており、生産に伴い材料となる夕顔の畑の景観や農家の庭先に干瓢が干される景観は、本市を含む栃木県南部の夏の風物詩となっている。しかし干瓢の生産には多大な労力が必要であることから、生産量生産者ともに徐々に減っており、後継者の確保も課題となっている。

干瓢生産・消費推進のため、干瓢苗・種子の購入費や生産機械・施設整備への支援として補助を実施した。また、消費推進のため干瓢むき等の体験を行う「しもつけかんぴょうまつり」や、干瓢料理の試食提供等を行う「かんぴょうづくしまつり」を開催したほか、干瓢取扱店舗を記載した市内農産物直売所マップの作成やPRのためののぼり旗の作成を行った。

また、干瓢の生産道具については、かつて使用されていた生産道具の収集・調査を行い、登録有形民俗文化財への登録等を目指す取り組みを進めるとともに、小学校での干瓢むきの出前授業を実施した。



かんぴょうまつりでの干瓢むき体験の様子



農産物直売所マップ



干瓢むき機の変遷

③ 自己評価

かんぴょうまつり等の消費推進については多くの参加者が見られ効果的であったが、生産者数の減少に対して抜本的な解決策に結びつくまでは至っていない。更なる消費拡大を図ることが、生産量維持、生産者創出につながり、ひいては文化的景観の維持につながるため、一層の取組が求められる。また、干瓢生産道具の収集・調査については、文化財への登録へ向けての十分な調査を実施することができなかった

④ 今後の対応

引き続き干瓢生産農家への支援を継続し干瓢の生産振興を図るとともに、干瓢の魅力発信のためイベント等を開催し、消費意欲向上を目指す。また、生産道具についても積極的に収集・調査を実施するとともに、干瓢生産初期に使われていた手カンナによる干瓢むきの出前授業を市内小学校で行うほか資料館等においても実施していく。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	6 ワラデッポウにみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ歴史と伝統を守り、継承する人々の活動の支援 Ⅴ歴史的建造物等の周辺環境の維持・向上		

① 歴史的風致の概要

ワラデッポウの行事は、灌漑用水が発達した水田地帯である南河内地区の吉田地域と薬師寺地域の一部を中心に、豊作祈願や収穫の感謝をあらわす年中行事として現在まで継承されてきた。また、藁鉄砲制作は、保育園や小学校における祖父母参観などを通して親やお年寄りから子どもたちへ伝承されている。子どもたちが藁鉄砲を持って各戸をまわる様子や、掛け声とともに地面を叩く時に出るパーンパーンという音、また、行事後に庭先の柿や栗の木に藁鉄砲が吊るしてある景観は、本市の歴史的風致をつくりだしている。

② 維持向上の経緯と成果

市内の南河内地区を中心に行われているワラデッポウは、その地区の小学生が、藁を棒状に束ね縄で巻いた藁鉄砲を持ち、集落内の各戸を訪問し、藁鉄砲で地面を叩きながら、豊作を願う掛け声を唱えながら行う行事である。明治時代の記録にも残される行事であるが、近年の少子化等により実施できない地域が増えている。

このワラデッポウの行事を継承するために、公民館や小学校でワラデッポウの体験講座等を実施したが、コロナ禍により講座等が中止されたとともに、地域の小学校が再編により閉校となったことから継続した取り組みを実施することができなかった。

なお、ワラデッポウ行事のルート上にある天満宮の建物調査を実施し、これまで不明であった本殿の建築年代が棟札から文久3年（1863）に再建されていることが確認され、また彫刻の制作者が明らかになったことから、栃木県の近世寺社建築において、非常に価値の高い建造物であることが判明した。



藁鉄砲づくりの様子



ワラデッポウ体験



天満宮神社本殿

③ 自己評価

小学生を中心に実施する行事であることから、行事の継続に向けた取組が必要となるが、コロナ禍等により十分な取組を実施することができなかったが、建造物調査において貴重な知見を得ることができた。

④ 今後の対応

ワラデッポウの継承のため、体験等の事業や記録の作成を行うとともに、藁鉄砲を制作できる人材の把握を行っていく。また、天満宮神社については文化財としての指定や登録等について検討を行う。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

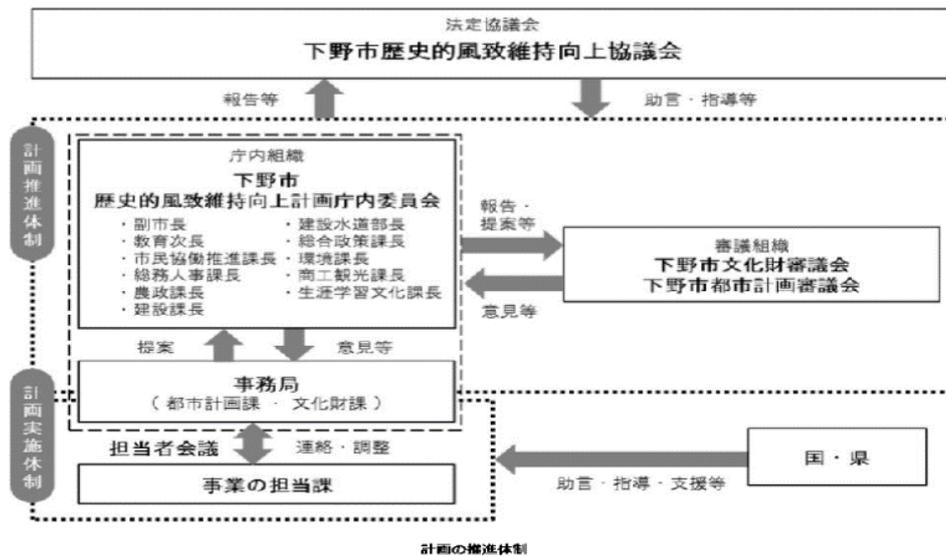
歴史的風致維持向上計画の計画策定にあたっては、都市計画課と教育委員会部局である文化財課が主体となり、関係部課長等で組織する下野市歴史的風致維持向上計画庁内策定委員会で検討を進めた。

推進体制は、事務局となる都市計画課と文化財課が中心となり、関係各課との連携を図りながら、下野市歴史的風致維持協議会において計画推進や計画変更、効果的かつ円滑な事業実施に向けた協議を行い、事業の推進を図っている。また、事務局と各事業担当者は随時協議や連絡調整を行うとともに、庁内担当者会議を開催することで全体の事業間調整や進捗確認をおこなっている。

引き続きこの体制を維持し、事業を実施していく。



庁内担当者会議の様子



② 庁内の意見・評価

- ・事業実施にあたっては、複数の部署に跨る事業もあることから、担当部署間において密に情報共有をし、連携しながら進めていくことが重要である。
- ・歴史的風致維持向上計画庁内担当者会議により、部署を越えて連携しながら事業を進めることができるようになった。
- ・東の飛鳥プロジェクトと連携することで、より良い事業になっていくのではないかと期待している。
- ・下野薬師寺いにしへの道整備事業にあたっては、薬師寺地区まちなみ協議会と現地視察等を行っているが、事業の推進は地域住民との協力・連携が重要である。

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
<p>① 住民意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存・活用に関する事業は後世に継承していく重要な施策と考えられ、事業終了後も将来を見据えた維持管理ができるよう、十分検討していただき、プロジェクトの推進を図っていただきたい。 ・古墳、飛鳥、天平、奈良時代の古い史跡を数多く持っている県内でも唯一ユニークな市であり、下野薬師寺（奈良の東大寺、太宰府市の筑紫観世音寺と並ぶ日本三戒壇の一つ）や、国分寺、国分尼寺が置かれ、東国の重要な地であった証であり、その存在と活用の意義は大きい。その一環としての本事業は、遅きに失した感が無いではなく、その歴史的な価値を広く知らせ、本市の知名度向上にも大きく貢献し、更に駅前に本市の主要史跡の大型案内板の設置や、史跡への案内標識への設置など、きめ細やかな施策も望まれる。 ・薬師寺や国分寺など遺跡があるが、知らない人が多い気がします。周知の方法を考えていただきたい。 ・下野薬師寺跡整備事業は着実な整備事業が推進されていると評価する。本市の歴史的遺産の保存・整備・活用が進むことは、市民の豊かな文化遺産環境づくりと誇りにつながると思う。 ・龍興寺や薬師寺八幡宮や史跡下野薬師寺跡、歴史館につなぐ整備、大いに期待している。周遊コースを整備することで本市を訪れる人も増えるし、補助事業なので制約もあるだろうが文化財課の腕の見せ所を期待したい。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統文化体験事業」と「民俗芸能・伝統行事継承事業」の2つの事業については、2つの担当課がそれぞれ事業を実施しているが、似通った事業内容もあり、両課が連携できる場所は連携し、特に独自の観点や目標がある事業については仕分けしてそれぞれで行う等により、全体として効果をあげる必要があるのではないか。 ・干瓢生産・消費推進事業について、干瓢の消費量が減ってきている中で、干瓢の使い方、利用方法を学ぶイベントを駅から近い会場に設定し、大いに宣伝する必要があるのではないか。 ・予算等の関係もあると思うが、一年でも早く魅力的で分かりやすい情報案内説明板を設置していただき、下野市の観光客・見学者に喜んでもらい、より多数の方の来客につながるようになってほしい。 ・下野市内には、由緒ある寺院があるので、しっかり学んでいくことは大切なことである。観光ガイドの養成講座については、是非とも、実施していただきたい。 ・下野市の歴史的情緒が体感できるような道路への美装化ということであるならば、下野市の歴史的情緒にふさわしい整備手法を検討するべき。 ・道の駅から薬師寺周辺への移動や、薬師寺地内の史跡間の移動の仕組みについて、重点的に検討してほしい。 ・天平の丘公園における再整備を施した駐車場について、必要最低限の面積を確保したうえで、空いたスペースの様々な使い方を考えていけるとよいのではないか。 			

市町村名	下野市	評価対象年度	R1～R5年
<p>① 全体の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的建造物についての調査を実施し、今後の保存等のための資料とすることができているが、まだ十分な調査が進んでいない。旧日光街道沿いの民家についても取壊しが行われるなど、今後取壊し・建替えられてしまう建造物が増えていく可能性もあり、今後の調査・保存等について早急な対応が必要である。 2. 地域に残される伝統行事や祭礼等の継承について、後継者不足などにより存続が難しくなっているものが多く、コロナ禍により継承がより困難になりつつある。そのため、祭礼等を継承していくため、調査や記録を行い、継承のための支援を行う必要がある。 3. 本市の特産品である干瓢生産は江戸時代から300年以上の歴史があるが、近年生産量の減少とともに後継者不足が問題となっている。これまで、生産に対する支援や消費拡大に向けた取り組みを行ってきたが、大きな改善がみられない。 4. 公共サインの整備については、これまで統一した基準を基に設置してこなかったため、今後のサイン設置のため基準等の整備が必要である。 			
<p>② 今後の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的建造物については、引き続き調査を実施するとともに、指定・登録等により保存を図っていく。また、建造物の修理・活用等に対する支援の方策について検討を行い、建造物の価値や保存・活用についての認識を高めるため啓発等も進めていく。 2. 伝統行事や祭礼等の継承について、調査や記録の作成により継承活動に活かしていく。道具等の修理等に対しては、指定文化財に限らず未指定の文化財に対しても補助等による支援ができる制度について検討を行う。また、小中学生向けの伝統文化体験事業を継続して実施し子どもたちの理解向上につなげる。 3. 引き続き生産に対する支援や魅力発信に向けた取り組みを行っていくほか、新たな支援等についての検討を行う。また、小学校での出前授業や資料館における干瓢むき体験の実施とともに、干瓢むきの生産道具の調査を進め、国の登録有形民俗文化財への登録を目指すことにより干瓢に対する理解を深めていく。 4. 公共サインの設置については、今後担当者での検討及び市内での基準の作成を行い、順次設置・更新を行っていく。 			